

授業科目名	器楽合奏（和楽器を含む）(2100849)		
時間割名	器楽合奏（和楽器を含む）(70102)		
時間割担当	大西雅博	青山雅哉	清水康弘
実施期	通年	単位数	2 選択
曜日・時限	集中		

授業の目標・概要

金管楽器・木管楽器・打楽器（和楽器を含む）について幅広く扱い、合奏演習を行う。実際に楽器を使用することにより、楽器の構造・メンテナンス・簡単なリペアまで、多彩な学習を進める。基本的な西洋及び和楽器の演奏技術を学び、アンサンブル力・合奏力の基礎を養う。

各金管楽器・木管楽器・打楽器（和楽器を含む）とピアノによる伴奏や室内楽による演習を行う。各楽器の特徴や奏法、記譜法を学修し、器楽合奏指導への基礎的知識を修得する。

学習の到達目標

各楽器の構造について、基本的な知識を得、それぞれの楽器の簡単なリペアやバランス調整ができるようになることを目指す。また奏法については、基本的なテクニックを修得し、自主練習ができるようになる。個々の楽器の音色を生かした基本的なハーモニー感を体得する。また、ピアノによる伴奏について、ジャンルに応じた基本的な知識を得る。

授業方法・形式

実際に楽器を使用することにより、セッティングから奏法まで段階を経て体験し、個々の楽器の技術向上・音作りへと発展させる。そしてその技術をアンサンブル演習に生かし、演奏力・実践力を身につける。楽器の種類が多く、演奏方法も多種多様であるため、授業では、練習方法について研究・学習し、授業時間外で個人の実践力を身につける。

授業計画

- 第 1回 オリエンテーション：
器楽合奏についての概要説明と演習説明（担当：青山雅哉、大西雅博、清水康弘）
- 第 2回 打楽器奏法1：
スムーズスティッキング・シングルストロークの奏法について演習する。（担当：大西雅博）
- 第 3回 打楽器奏法2：
合奏における和楽器の使用と効果について演習する。（担当：大西雅博）
- 第 4回 金管楽器奏法1：楽器の構造・メンテナンス・マウスピースでの奏法を演習する。（担当：清水康弘）
- 第 5回 金管楽器奏法2：ロングトーン・運指・タンギングについて演習する。（担当：清水康弘）
- 第 6回 金管楽器奏法3：デイリートレーニングを使い、能率の上がる練習法を研究する。（担当：大西雅博）
- 第 7回 金管楽器奏法4：リップスラー・フラッター・ミュート奏法について演習する。（担当：清水康弘）
- 第 8回 金管楽器奏法5：
十二音階（タンギング・スラー・スタッカート）について演習する。（担当：清水康弘）
- 第 9回 木管楽器奏法1：
楽器の構造・メンテナンス・リードについて学習する。（担当：大西雅博、清水康弘）
- 第10回 木管楽器奏法2：ロングトーン・運指・タンギングについて演習する。（担当：大西雅博、清水康弘）
- 第11回 木管楽器奏法3：デイリートレーニングを学習し、能率の良い練習方法を研究する。
（担当：大西雅博、清水康弘）
- 第12回 木管楽器奏法4：十二音階（タンギング・スラー・スタッカート）について演習する。
（担当：大西雅博、清水康弘）
- 第13回 アンサンブル1：金管または木管アンサンブルの楽曲に取り組む。（個人）
（担当：大西雅博、清水康弘）
- 第14回 アンサンブル2：和楽器を用いた邦人作曲家による金管または木管アンサンブルの楽曲に取り組む。
（グループ）（担当：大西雅博、清水康弘）
- 第15回 中間総括：前回の合奏の講評（担当：大西雅博、清水康弘）
- 第16回 管楽器の特徴と記譜法（担当：大西雅博）
- 第17回 打楽器の特徴と記譜法（担当：大西雅博）
- 第18回 和楽器の特徴と記譜法（担当：大西雅博）
- 第19回 管楽器とピアノによる伴奏法演習：バロック時代の協奏曲（担当：青山雅哉、大西雅博、清水康弘）
- 第20回 管楽器とピアノによる伴奏法演習：古典時代の協奏曲（担当：青山雅哉、大西雅博、清水康弘）

成績評価の基準

【授業計画の続き】

- 第21回 管楽器とピアノによる室内楽演習：バロック時代のソナタ（担当：青山雅哉、大西雅博、清水康弘）
第22回 管楽器とピアノによる室内楽演習：古典時代のソナタ（担当：青山雅哉、大西雅博、清水康弘）
第23回 管楽器とピアノによる室内楽演習：ロマン派以降のソナタ（担当：青山雅哉、大西雅博、清水康弘）
第24回 打楽器とピアノによる伴奏法演習：バロック時代の協奏曲（担当：青山雅哉、大西雅博）
第25回 打楽器とピアノによる伴奏法演習：古典時代の協奏曲（担当：青山雅哉、大西雅博）
第26回 打楽器とピアノによる室内楽演習：西洋における現代音楽（担当：青山雅哉、大西雅博）
第27回 打楽器とピアノによる室内楽演習：
邦人音楽家による和楽器を用いた現代音楽（担当：青山雅哉、大西雅博）
第28回 管楽器と打楽器とピアノによる室内楽演習：西洋における現代音楽（担当：青山雅哉、大西雅博）
第29回 管楽器と打楽器とピアノによる室内楽演習：邦人音楽家による和楽器を用いた現代音楽
（担当：青山雅哉、大西雅博）
第30回 演奏発表と総括（担当：青山雅哉、大西雅博、清水康弘）

【成績評価の基準】

授業内において、基本奏法の修得（20%）、課題達成度（20%）、合奏におけるアンサンブル力（20%）を中心に評価する。さらに学期末試験において総合的な習熟度を確認する。（40%）

準備学習・復習及び授

授業の時間内に練習をして上達するのではなく、授業では前回の課題に対する達成度の確認と修正を行い、今回の課題を明確にし、練習方法を学習する。その練習方法を用いて、授業時間外に一週間個人で練習を行い、また新たな問題点を追求し、技術の向上に努める。

履修上のアドバイス及

楽典については、高校卒業程度のレベルが理解できていることが望ましい。
初見力は問わないが、最低限、楽譜が読めることは必要。

教材・教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

1. TIPPS for BAND 著作・出版社：アルフレッド社
2. 中村孝義『室内楽の歴史 音による対話の可能性を求めて』東京書籍、1994